

気づく ～気になる行動・反応はありませんか～

社会で生きていくためには、社会性やコミュニケーションが必要となります。発達障害のある子どもは、それが苦手なため、幼稚園や小学校などの集団に入ると、さまざまな問題や困難に直面することになります。障害が理解され、適切なサポートがされないと、学校に行くことがストレスとなり、不登校や引きこもりなどの二次障害につながる場合もあります。発達障害のある子どもが、社会に適応する力を身につけながら、自分らしく成長できるようにするためには、**発達障害に早く気づき、適切な療育(*)につながる**ことが重要です。

※療育 = 医療や訓練、教育、福祉などを通じて、障害があっても社会に適応し自立できるように育成すること。



配慮する ～発達障害の人に接するとき～

発達障害があるといっても、障害の種類や程度によっても違いますし、年齢や性格などによっても、一人一人、現れ方は違います。生活の中で困難なこと、苦手なことも一人一人違います。そのため、**一人一人の特性に応じて配慮したり、支援したりしていくことが重要**です。ここでは、家族や学校、職場など身近な場所で、発達障害のある人と接する方はもちろん、それ以外の方にも、発達障害がある人に対して配慮していただきたい、基本的なポイントをいくつか紹介します。

●できたことをほめる/ できないことを叱らない

発達障害のある人は、ほかの人が簡単にできることでも、うまくできないことがあります。本人ができないことや失敗したことを責めたり、叱ったりすると、本人が「自分はだめだ」と落ち込んでしまったり、他の人や社会のせいにして批判的・攻撃的・反社会的行動傾向が強まったりしてしまいます。注意をする場合は、**努力している点やうまく行っている点をほめたうえで、できなかったところは、どのようにすればもっとよくなるかを肯定的、具体的に伝えましょう。**

●視覚的な情報を提示して説明する

発達障害の人のなかでも、自閉症などの広汎性発達障害の特性をもっている人の多くは、言葉で言われるよりも、目で見て分かる情報のほうが理解しやすいといわれています。その人が理解している言葉を使い、**写真や絵などを添えて説明してあげると理解しやすくなります。**



●説明や指示は短い文で、 順を追って、具体的に

発達障害の子ども(人)はあいまいな表現を理解するのが苦手です。言葉で説明するときは、**短い文で、一つずつ順を追って、具体的に**することなどを配慮しましょう。話を理解しやすくなり、見通しがもてるようになります。

●安心できる環境を整える

自閉症の人たちの中には、**人混みや大きな音、光などの刺激を苦手とする**人が多くいます。そのような刺激による不快感を大きくしないよう、安心できる環境をつくってあげましょう。



●善悪やルールをはっきりと教える

発達障害のある人は、暗黙の了解や社会のルールが分からないことがあります。いけないことや迷惑なことははっきり教えましょう。注意したり、叱ったりするだけでは、どうしたらよいかわからないので、**具体的にどのようにしたらよいかを教えましょう。**



●発達障害の子ども(人)を温かく見守る

子どもが騒いだり、パニックを起こしたりしているとき、「なぜ親は叱らないんだ」という立場があるかもしれません。しかし、発達障害の子の中には、**少しの時間待つことで無理に叱るよりも早く混乱から抜け出せる**こともあります。周囲の人にこうした知識があるだけで、本人も家族も楽になれます。

はじめに



今回の特集ページについては、先日とある保護者の方から「発達障害がいていて理解を深めた」とのお話があったことをきっかけに発達障害がいていて取り上げることになりました。難しいテーマではありますが、広報委員会で話し合いをした結果、まずは**私たち保護者や地域が正しい知識を学ぶことで社会受容が高まり、これが、関係する子どもや保護者の生活の安定の一助になる**のではないかと考えました。そこで今回は「発達障害がいていて保護者と地域が理解を深める」事をテーマに記事づくりをスタートしました。先般お配りしたアンケートでは多くの保護者の皆さんに回答いただき、誠にありがとうございました。さまざまなご家族の悩みや思いなど、貴重なお話をお伺いすることができました。また、この他に発達障害がいて関わられている保護者の方から、受容に至るまでの想いをお伺いしました。保護者の皆様のご理解と協力により、大切な記事が出来たと考えております。最後に、今回の記事については、保護者だけでなく、ご家族や地域の多くの方々に読んでいただきたいと思えます。

発達障害ってなんだろう? (政府広報オンラインより)

発達障害は、広汎性発達障害(自閉症など)、学習障害、注意欠陥多動性障害など、脳機能の発達に関係する障害です。発達障害のある人は、他人との関係づくりやコミュニケーションなどがとても苦手ですが、優れた能力が発揮されている場合もあり、周りから見てアンバランスな様子が理解されにくい障害です。発達障害の人たちが個々の能力を伸ばし、社会の中で自立していくためには、子どものうちからの「**気づき**」と「**適切なサポート**」、そして、発達障害に対する**私たち一人一人の理解**が必要です。

理解する ～発達障害ってなんだろう?～ (それぞれの障害の特性)

自閉症

- 言葉の発達の遅れ
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、こだわり

注意欠陥多動性障害 AD/HD

- 不注意(集中できない)
- 多動・多弁(じっとしていられない)
- 衝動的に行動する(見えるよりも先に動く)

広汎性発達障害

アスペルガー症候群

- 基本的に言葉の発達の遅れはない
- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味、関心のかたより
- 不器用(言語発達に比べて)

学習障害 LD

- 読む、書く、計算するなどの能力が全体的な知的発達に比べて極端に苦手

知的な遅れを伴うこともあります



※このほか、トゥレット症候群や吃音症なども発達障害に含まれます。

発達障害は、脳機能の発達に関係する障害です。発達障害がある人は、コミュニケーションや対人関係をつくるのが苦手です。また、その行動や態度は「自分勝手」とか「変わった人」「困った人」と誤解され、敬遠されることも少なくありません。それが、親のしつけや教育の問題ではなく、**脳機能の障害**によるものと理解すれば、周囲の人の接し方も変わってくるのではないのでしょうか。また、発達障害は、複数の障害が重なって現われることもありますし、障害の程度や年齢(発達段階)、生活環境などによっても症状は違ってきます。**発達障害は多様である**ことをご理解ください。